

NITE化学物質管理フォーラム2006 - パネルディスカッション - 「科学的リスク評価に基づく 化学物質管理のあり方」

パネリスト：東海 明宏

ノニルフェノールリスク評価管理研究会委員長

吉田 喜久雄

フタル酸エステル類リスク評価管理研究会委員長

河村 光隆

ビスフェノールAリスク評価管理研究会委員長

モデレータ：重倉 光彦

NITE 化学物質管理センター所長

nite

ノニルフェノール リスク評価管理研究会

検討経緯

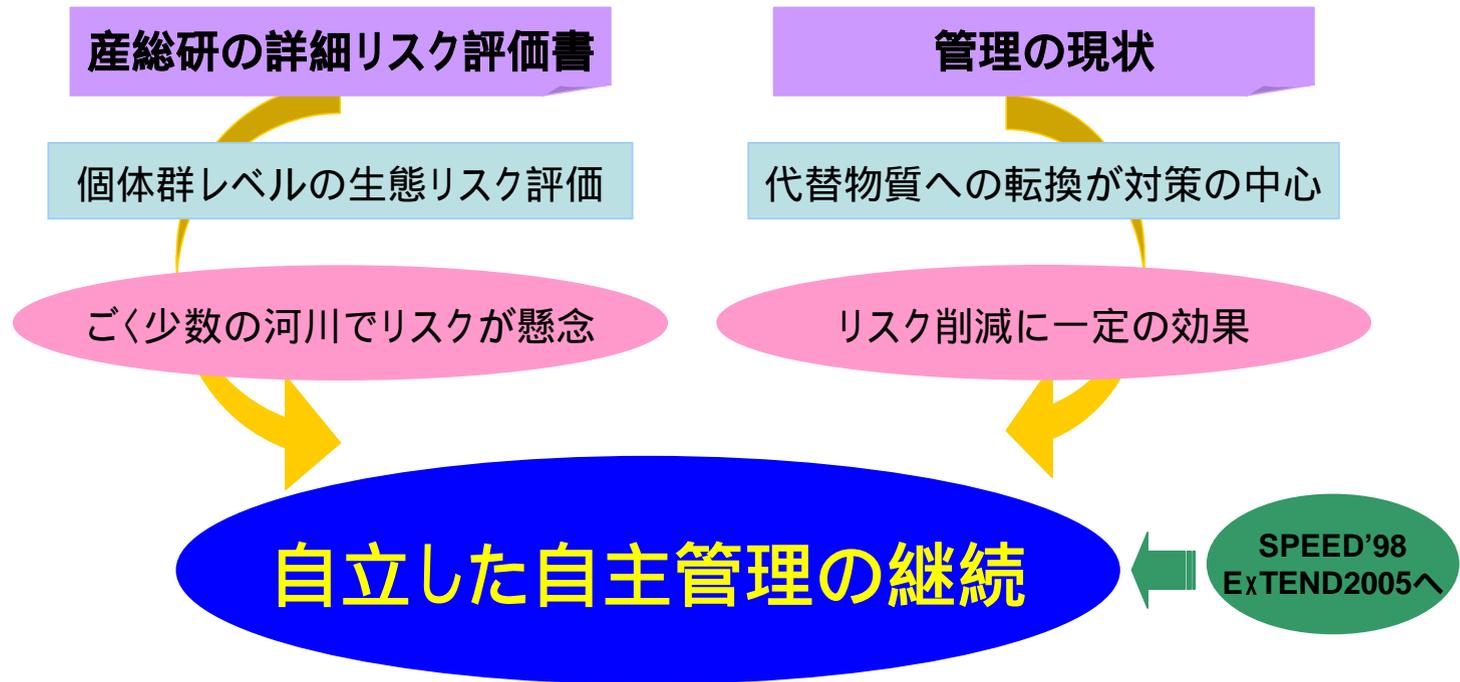
設置年月日：2001年11月

開催回数：9回

中間報告書とりまとめ日：2003年8月

最終報告書公表日：2004年10月

NP,NPEの今後のリスク管理のあり方



- 最新のリスク評価結果などの情報の共有・活用すること
- 高濃度河川を所轄する地方自治体と産業界が協力し、コミュニケーション強化を行うこと
- NP, NPEの代替物質のリスク評価が必要である

フタル酸エステル類 リスク評価管理研究会

検討経緯

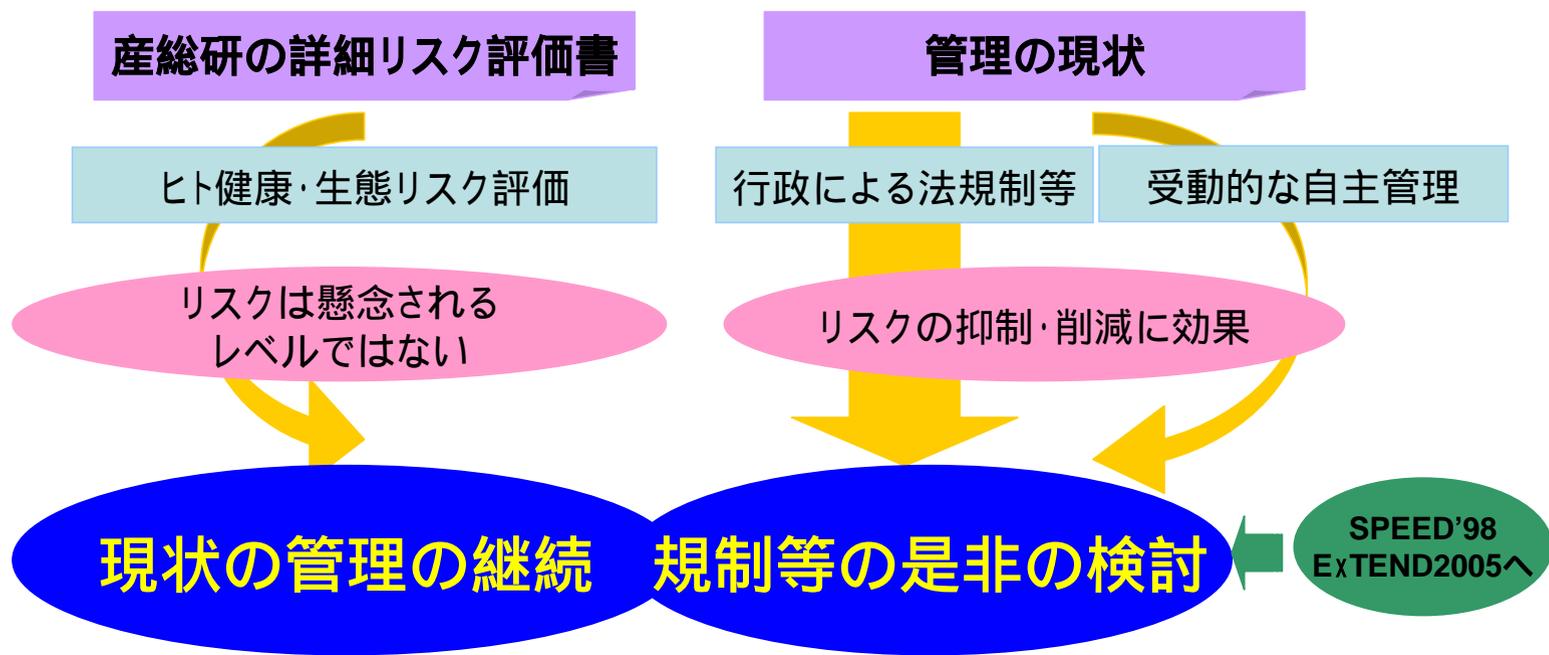
設置年月日：2002年7月

開催回数：9回

中間報告書とりまとめ日：2003年5月

最終報告書公表日：2005年1月

DEHPの今後のリスク管理のあり方



- DEHPを排出している事業所は、費用対効果を考慮してリスク削減措置を行うこと
- 法規制により代替物質へ転換した場合は、その物質の情報を収集・整備・活用すること
- 環境中の挙動については未解明の部分があるので、科学的知見を収集すること
- サプライチェーンに沿った情報の整備・活用を行うこと
- 公的機関は産業界の自主管理の支援となる知的基盤整備を行うこと

ビスフェノールA リスク評価管理研究会

検討経緯

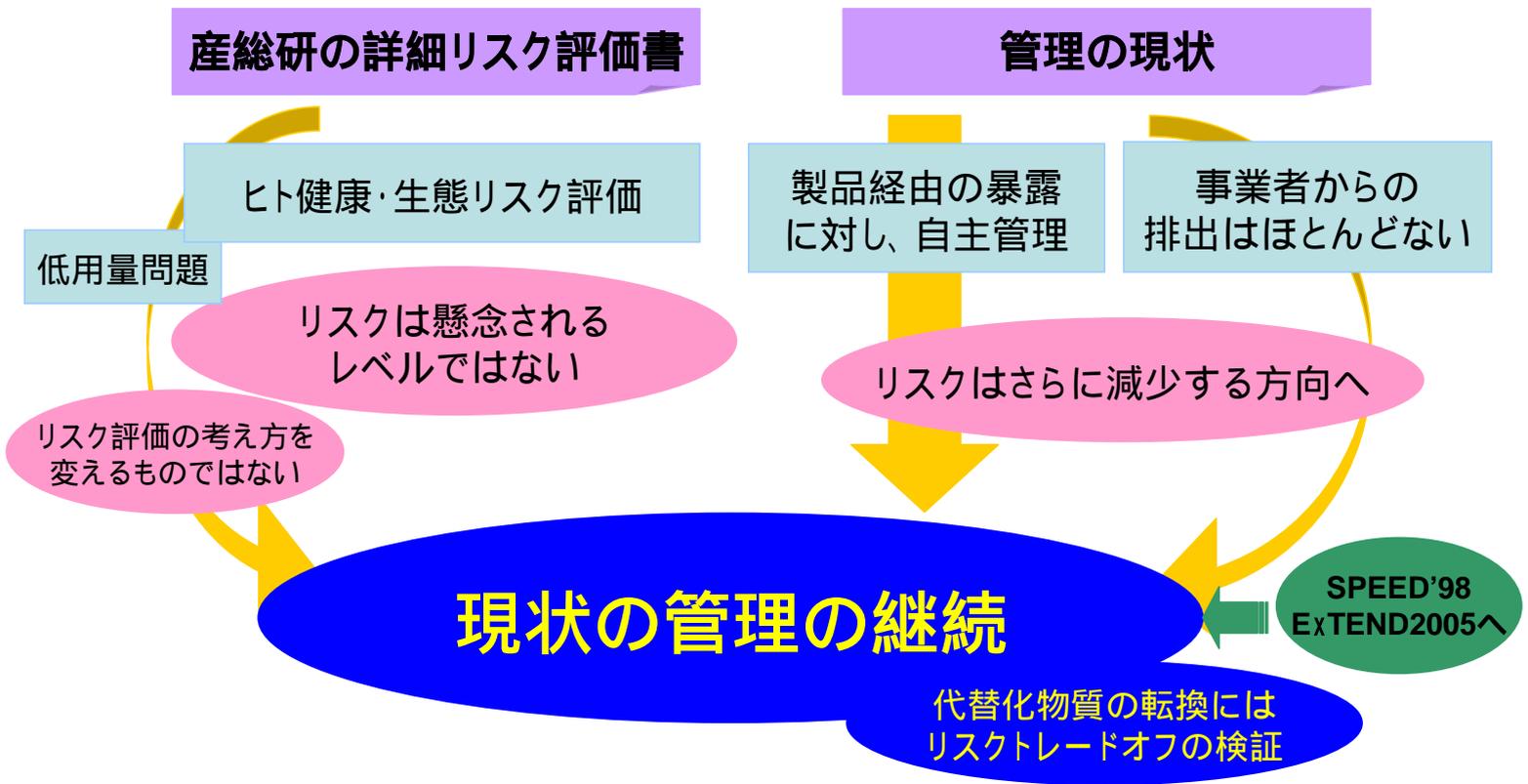
設置年月日：2002年7月

開催回数：12回

中間報告書とりまとめ日：2003年5月

最終報告書公表日：2005年11月

BPAの今後のリスク管理のあり方



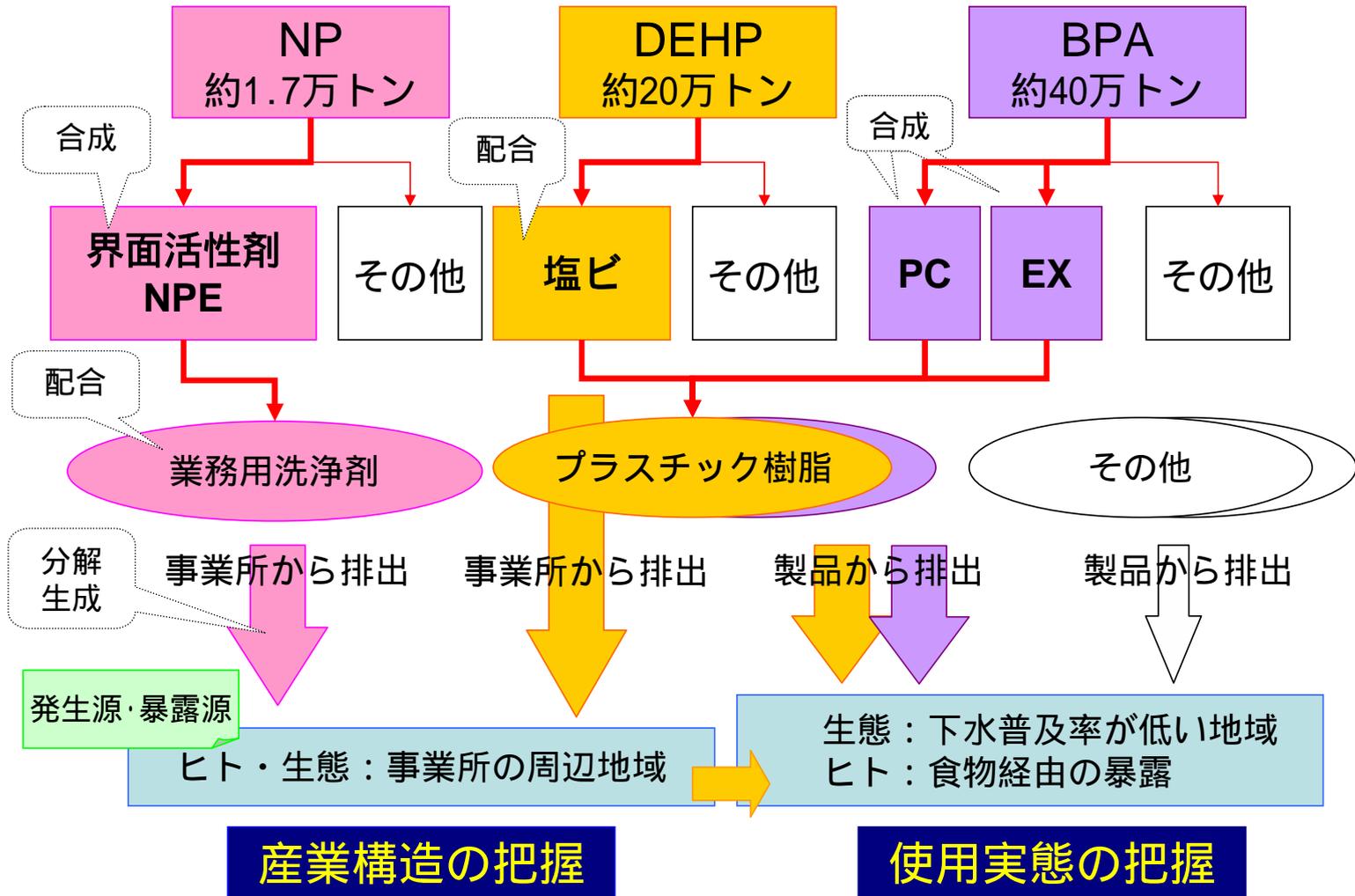
- 代替物質への転換は慎重に行うこと
- 低用量問題については積極的かつ継続的な情報収集・開示を行うこと
- 用途別使用量や環境中濃度などの暴露情報の整備・活用を行うこと

物質の特徴

物質名	NP	DEHP	BPA
分子式	$C_{15}H_{24}O$	$C_{24}H_{38}O_4$	$C_{15}H_{16}O_2$
分子量	220.35	390.56	228.29
外観	淡黄色粘稠性液体	無色粘稠性液体	白色固体
内分泌かく乱作用 (動物試験/生態試験)	明らかなものは 認められない/ 魚類に対し 有することが強く推察	明らかなものは 認められない/ 明らかなものは 認められない	明らかなものは 認められない/ 魚類に対し 有することが推察
リスク評価のイントポイント (動物試験/生態試験)	生殖・発生毒性/ 生態毒性	精巢、生殖毒性 /生態毒性	一般、生殖・発生毒性 /生態毒性

商品の流れ

nite



報告書の反響

化学物質の内分泌かく乱
作用に関する
国際シンポジウム展示



環境白書で紹介

新聞記事の掲載



HPアクセスログ数

NP : 約6,200アクセス (2004.10 ~)
DEHP : 約3,200アクセス (2005.01 ~)
BPA : 約5,500アクセス (2005.11 ~)

業界からのコメント

- ヒアリング調査結果(抜粋) -

- 👉 業界の取組状況をよく把握して書かれている。
- 👉 ステークホルダーで議論し、公的機関から出ることに重みがある。
- 👉 読みやすく、結論がすっきりしている。
- 👉 表現がわかりにくいところがあり、説明に出向いた。
- 👉 意識改革に一助、安全情報の収集・提供を徹底している。
- 👉 代替化について、リスクトレードオフが配慮されてきた。
- 👉 報告書のとおり、自主管理を継続する。
- 👉 英語化を期待している。